

種苗生産過程におけるクルマエビの急性ウイルス血症（PAV）の防除対策

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-04-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐藤, 純, 虫明, 敬一, 森, 広一郎, 有元, 操, 今泉, 圭之輔 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2014546

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



種苗生産過程におけるクルマエビの急性ウイルス血症 (PAV) の防除対策 (総説)

佐藤 純・虫明敬一・森 広一郎・有元 操・今泉圭之
輔

クルマエビの種苗生産過程で発生する急性ウイルス血症 (PAV) の防除対策について概説した。種苗生産過程における本症の主たる感染経路は親エビからの垂直伝播である。PCR 法で親エビから高率に PRDV が検出される部位は産卵後の受精嚢であり、その PRDV 検出結果に基づく陰性の親エビ由来の受精卵の選別と、ヨード剤 (有効ヨウ素濃度 5 mg/l を含む紫外線処理海水で 5 分間) による受精卵の消毒を実施することは垂直伝播の防止策として有効であった。また、水平伝播の対策として、紫外線処理海水を飼育用水として使用する必要がある。

栽培技研, 30(2), 101-109, 2003